

すべてが憶測！会社は必死になるも つくり上げたストーリーはボロボロ！ 加藤民事裁判第7回口頭弁論



10月28日、加藤民事裁判第7回口頭弁論が名古屋地裁で行われました。裁判には、JR総連やJR貨物労組の仲間も含め約90名が結集しました。今回は、原告加藤誠二さんと被告会社から山口蒲郡駅長、中村東海鉄事人事課長（共に当時）の証人尋問が行われました。

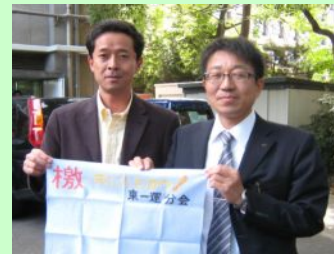
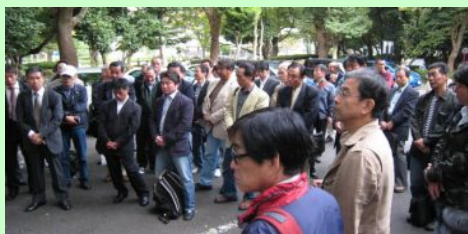
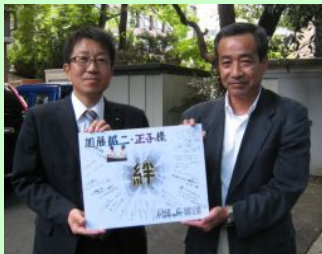


会社側は、中村、山口証言により、加藤さんが問題の文書を窃取したということを立証するために、四苦八苦していましたが、すべて憶測を証言したに過ぎませんでした。山口駅長などは、犯行があったとされる1月15～16日にかけての深夜、古田助役による管理者用書庫の鎖錠状況などについて質問されると、しどろもどろになり、当日の様子については一切証言ができませんでした。

また、加藤さんに対する質問では、監視カメラの映像を基に、何をしているところなのか執拗に質問するなど、「窃盗」事実を証明しようとしたのですが、写っていない部分を憶測に基づいて証言させようとするあまり、思うようにいかず、逆につじつまが合わなくなる始末でした。



これで、会社がつくり上げた、加藤さんが「窃取した」という犯行ストーリーが一気に崩壊することになります。次回は、来年2月17日10:00結審です。



被告会社は事件テツチ上げに必死！